

# ポロニア

ポロニアは県花「桐」の学名です。

第40号

2018-7

平成30年7月18日発行

発行／岩手県高等学校PTA連合会

〔事務局〕盛岡市上田三丁目2-1 TEL(019)625-6386  
E-mail iwa-koupren@aroma.ocn.ne.jp FAX(019)613-7795

## 平成30年度 県高P連 定期総会・研究協議会開催



▲岩手県高P連 渡辺正和会長

岩手県高P連平成30年度定期総会・研究協議会が6月6日、盛岡市のサンセール盛岡で開催されました。県内66校から単位PTA会長・副会長、校長、事務局長など254人が出席。今年度の事業計画・収支予算などが審議されました。

渡辺正和会長は「ここ数年活動の中心だった大会準備も昨年の第66回東北地区高P連盛岡大会をもってひと段落し、ここでの挨拶もやっと別の話題に触れる事ができる」と前置きした上で、県高P連進路対策委員会が毎年取り組んでいる進路に関する啓発リーフレット作成についてお話ししました。議事に先立ち表彰式がおこなわれ、PTA活動で功績のあった個人89名・第22回広報紙コンクール入賞校8校を代表して小島純盛岡南高校前PTA会長が「受賞は各校校長をはじめ担当の先生方、会員の方々のご指導ご協力ご理解があつてこそであり、この場を借りて感謝申し上げます」と謝辞を述べました。また、「自分たちはこれでPTA役員としての活動は一区切りとなるが、皆様には引き続き生

徒の為のPTA活動にご尽力いただきました」と言葉を贈りました。表彰式に続き来賓の高橋嘉行岩手県教育委員会教育長、川上圭一岩手県高等学校長協会会長、森川高博岩手県PTA連合会副会長が祝辞を述べました。議事では平成29年度会務・収支決算の報告、平成30年度役員選出活動方針・事業計画・収支予算案の審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。役員人事は渡辺正和会長が再任されたほか、副会長その他についても原案どおり承認されました。平成30年度一般会計予算案では、会員数・クラス数の減少に伴い、収入の部が昨年度比32万5千97円減、支出も原案の通り承認されました。総会に続き行われた研究協議では「岩手のスポーツ振興と部活動」と題して、岩手県教育委員会事務局保健体育課の荒木田光孝首席指導主事兼総括課長が解説しました。昨年からは今年にかけて岩手のスポーツはメジャーリーグで活躍



▲PTA活動に尽力された皆様

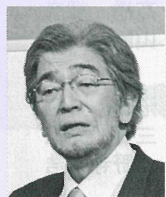
中の大谷翔平選手を筆頭に、兄弟で平昌オリンピックに出場した小林潤志郎選手・陵南選手など明るい話題が多かった。

このような県出身選手の存在が岩手の子どもたちに、世界での活躍が遠い夢ではなく、実現可能な「目標」としてより身近に感じられるようになっていとお話。

一方で、柔道のパワハラ問題や日大のアメフト問題については指導者の行き過ぎた行為や無責任な対応にも触れ、こういった問題は子どもたちの純粋なスポーツを楽しむ心を奪う事になり、スポーツという文化を衰退させる一因となるのではと危機感を示しました。また、岩手県は高校における運動部への加入率の高さが全国1位

〈講演〉

### 演題「岩手に生きる 新聞人として、親として」



講師 東根千万億氏  
(株式会社岩手日報社 代表取締役社長)

総会の後、岩手日報社社長の東根千万億氏が「岩手に生きる新聞人として、親として」と題して講演しました。

新入社員には「よく人と会い、よく本を読み、よく旅をする」とように話しているという東根氏。とりわけ岩手でジャーナリストをする以上は日本でも特異な歴史を持つ岩手をもっと知るべきという信条を持ち、自身の仕事観なども交え話しまし

の数字であり、多くの生徒がスポーツに触れている現状を喜びつつも、バランスの悪い偏った練習量や指導方法、専門性を持たない教員が指導せざるを得ない状況や担当教員の時間外勤務など課題も多く、指導のガイドライン策定や部活動の休日設定などは急務であると強調。

最後に「保護者の方々の協力なくしては部活動の今後の発展は難しいところまで来ている。」とより一層の協力を呼びかけました。



▲荒木田光孝氏

た。また、地方紙であっても世界に引けを取らない日本を代表する新聞社を目指せるとの考えのもとに実践し、いくつかの特定分野ではトップレベルと自負できるものが出てきたと話しました。

講演の中で、親としては身だしなみ、礼儀はもちろんの事、小学生の頃はとにかく本を読ませ母語をしっかりと身に付けさせるようにしたと話し、その大切さを訴え世間の新聞離れ・活字離れが招く問題にも言及。また、特に厳しい現実から逃げず困難に立ち向かう事の大切さは親として伝え続けたと話しました。



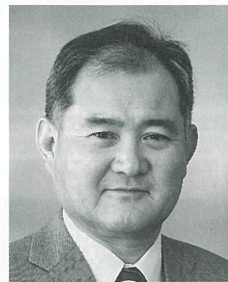
岩手県立高田高等学校PTA会長 鷗浦 昌也



▲PTA研修旅行



▲母親委員会「道のカフェ」



前に戻ったわけではありません。運動部によつては、いまだ不自由な面もありますが、どの生徒も目を輝かせながら学校生活を送っている姿は、親をはじめ地域の方々に元気を与えてくれています。

そのような環境ですが、PTAとして少しでも子どもたちの手助けとなるような活動を心掛けています。

具体的に、1学年の保護者は生徒たちの通学路であいさつ運動を展開。元気なあいさつを通じてお互い心を交わし、朝から清々しい気持ちを抱かせてくれます。

東日本大震災から7年以上が経過したにもかかわらず、本校を取り巻く環境はすべてが震災

2学年は会報「まつばら」の編集。慣れない作業に苦労もありますが、担当する先生の協力により、年2回の発行で情報発信しています。

3学年は研修旅行を企画。主にバスツアーですが、保護者同士親しく交流する機会が少ないことから、参加者から好評で続けています。

そのほか、母親委員会はスターバックスの協力により、文化祭「高高祭」でカフェをオープン。店頭に行列ができるほどの人気で来場者から喜ばれています。

今後も教職員と保護者が協力し、次代を担う生徒たちための活動を積極的に展開していきたいと思っています。

## 請求なければ支払いなし

### (一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA単位で加入する制度で発足後17年目となりました。

〈岩手県加入状況〉

68校 / 27,049人 (平成30年5月1日現在)

(68校 / 27,641人 平成29年度)

〈事故の際は〉全国高P連賠償責任補償制度事故受付電話 0120-119-110

### 岩手県高校生総合保障制度

〈加入状況〉

Aプラン(病気補償あり) 63校 1,967人

Bプラン(病気補償なし) 58校 593人

Cプラン(自転車重点型) 60校 1,186人

(平成30年5月21日現在)

〈引受保険会社〉 AIG損害保険株式会社盛岡支店

TEL 019-651-0584



## おらほのPTA



▲3学年PTA



▲関工祭模擬店名物 おでんも大好評

者への貴重な情報提供の場として大きな役割を担っており、参加率が非常に高い行事になっています。

母親委員会は本校の文化祭にあたる「関工祭」で模擬店の企画運営を行っています。特におでんの販売は名物として好評をいただいています。広報委員会は年に二度、PTAの活動や生徒たちの学校での様子をPTA会報の発行によりPTA会員に伝えています。

また、通学路指導を行っている健全育成委員会は、生徒の安心と安全を守る重要な活動になっています。それぞれの委員会の活発な活動により、私自身も支えていただいていると感じています。今後も我々PTAの活動が、生徒たちの学校生活をより充実したものにできるように努めてまいりたいと思います。

## 生徒たちのパワーをもらい

岩手県立一関工業高等学校 PTA会長

中鉢 謙郎



本校のイメージは、バスケットボール、弓道、卓球、陸上などの運動部の活動が活発な学校と言う方が多いのではないかと思います。高総体での輝かしい活躍ぶりは我々のPTA活動にも大きな刺激を与え、より活気を帯びた活動になっています。

本校PTAの代表的な行事に、学年PTAがあります。生徒たちの進路選択において、保護

# P T A 活動の結集 合同委員会・各委員会ひらかれる

2015年(平成27年)8月の全国高P連大会岩手大会に続き、2017年(平成29年)7月の東北地区高P連盛岡大会がありました。高P連ではこれらの大きな大会とともに各校の地道なP T A活動の結集ともいえる「各委員会」健全育成十進路対策十調査広報十母親」の4つの委員会活動があります。輪番で委員長・副委員長・委員が選出され、委員長選出校のP T A事務局の先生方のご協力とご指導のもとに活動しています。

は去る平成30年6月20日(水)にサンセーブル盛岡にて開催されました。本連合会の渡辺正和会長は挨拶の中で「平成29年3月に岩手県校長協会より『スマホ等使用自粛の取り組みについて』という文書が出された。『夜9時以降の通信利用を控える』ということが忘れられているのではないかと、と思われる。県連としては再認識していきたい。高校生が幸せになれるような活動を目指していきたい。」と述べました。

## 学校からの電撃打診!? 委員の決め方は様々

母親委員の皆さんに、どのような経緯で選ばれたのかお伺いしました。

まず、入学後、各クラスから理事が選出され、理事会などを経て母親委員となるパターンがあります。学校によっては、P T A行事に深く関わり「けっこう大変、むしろ、県連の母親委員の負担感はありません」と語る委員もいます。学習会や講習会などを開催し手作りの作品を文化祭に展示するなど、小中学校での文化教養部活動に近い学校もあるようです。また、出身中学校とあるいは地区で話し合いや立候補を経て互選する学校もあります。さらに、兄弟姉妹で入学した場合や、中学校などでP T Aに関わっていた情報などからか、学校からの打診を受けた委員もいました。その他、文化祭やクラスマッチ等の行事において、委員以外に手伝える人を募集する学校もあり、選出方法は様々です。

(高P連事務局)

## 編集後記

「人生全てネタ」。これはフェイスブックで繋がっていて、イベントで2回だけ会った事がある女性が載せていた言葉だ。彼女は、他人から見ると「ものすごく苦労している人」と思われるらしい。けれど、彼女はひょうひょうとして「何が不幸なのか分からない」と笑っている。息子4人を抱えて離婚、乳癌になり闘病、子供が不登校、中退…。なるほど、なんて不幸な人生。そう感じてしまっけれど、当の本人は「自分で自分を不幸」だとは思っていない。大変だった事はあっても「悲劇のヒロイン」ってガラじゃないもん。って…。決して強がって言っている訳ではなく、自然な笑顔で人生を楽しんでいるようだ。息子さんも不登校、中退を乗り越えて社会人としてしっかり頑張っている様子。きつと、お母さんが全てを受け入れてくれて「人生楽しいよ」という姿を見せていたからだろうか。大人が楽しむ姿を見せるって大切なこと。あまり目立たないように生きてきた私がP T A会長。人前で話すなんて…。声は震えるだろう、手も足も震えて意識が遠のくかもしれない。だけど「人生すべてネタ」と面白く一年間務めよう! そう思わせてくれた、彼女に感謝。

(調査広報副委員長・工藤幸子)

## 〈編集委員〉平成30年度調査広報委員

委員長 斎藤 憲一(水沢農業)  
副委員長 工藤 幸子(前 沢)  
委員 菊池 由美(遠 野)  
鎌田 仁(大船渡)  
小林 一幸(一 戸)  
佐々木真二(水沢農業)

## ◇事務局

高橋 秀幸(県高P連)  
木村 智子(県高P連)



▲健全育成委員会 登校時一声運動・マナーアップ運動が活動の中心。家庭・学校・社会が人を育て、人が家庭・学校・社会をつくることを再認識していきたい。



▲進路対策委員会 昨年に引き続き、今年も離職率の現状と企業が求める人材に関する講話を聞き、子どもの進路について学んでいきます。



▲調査広報委員会 主な活動は会報ポロニアの発行と広報紙コンクールの運営です。審査会は事務局校を中心におこないます。



▲母親委員会 次回会うのは、9月の母親会員交流会当日です!例年各地区協議会・ブロックにおける交流会もさかんて、アロマテラピーや味噌造り体験など、少人数であることの利点を感じられる活動がおこなわれています。



▲合同委員会 4つの委員会が一堂に会します。いずれの委員会も委員長選出校のP T A担当の先生方にいろいろとお世話になっております。

